

2023 年 3 月 10 日

獣医学ユニット長

佐々木 基樹 先生

帯広畜産大学 獣医学ユニット

QA 委員会

共同獣医学課程の教育改善に関する提言（2022（R4）年度）

平素より教育活動の質向上にご尽力いただきありがとうございます。下記のとおり、Quality Assurance 委員会として共同獣医学課程における教育改善に関する提言をまとめました。つきましては、本提言内容について対応をご検討くださいますようお願い申し上げます。

【提言事項】

1. 2021 年度卒業生への卒業時アンケートの結果から、学生は英語の学習に消極的であることが明らかになった。英語は、最新の獣医学を学ぶ上で重要なだけでなく、グローバルな問題や異文化を理解する上で今後重要性は増すものと考えられる。そこで、英語の学習機会を増やすような改善策を検討する。
2. 教員アンケートの結果から、多くの教員が研究重視の教育を期待していることが明らかになった。これについて、具体的な問題点と改善点を検討する。
3. 食肉検査を含む食肉衛生実習、豚や鶏の飼育管理に関する学外実習の実施が困難になっている現状について、改善策を検討する。

以上

2023 年 4 月 16 日

帯広畜産大学獣医学ユニット

QA 委員会 御中

獣医学ユニット長

佐々木 基樹

共同獣医学課程の教育改善に関する提言に対する回答（2022（R4）年度）

貴委員会より 2022 年 3 月 10 日付でいただいた「共同獣医学課程の教育改善に関する提言」について、下記のとおり対応および今後の取組方針を報告いたします。

【提言事項と対応状況】

1. 2021 年度卒業生への卒業時アンケートの結果から、学生は英語の学習に消極的であることが明らかになった。英語は、最新の獣医学を学ぶ上で重要なだけでなく、グローバルな問題や異文化を理解する上で今後重要性は増すものと考えられる。そこで、英語の学習機会を増やすような改善策を検討する。

回答：学生にとっての英語の学習機会は、1～2 年次の教養科目としての外国語科目を履修した後は、仮配属を含めた 4 年生後期からの研究室配属による課題研究論文（新カリキュラムから 10 単位）の実施において、引用文献の精読が必須となる。加えて、2022 年度から新カリキュラムとして 4 年生の前後期に獣医専門セミナーⅠとⅡがそれぞれ開講され、英語論文の紹介が単位化されている。2023 年度以降も引き続き実施されることから、本セミナーの効果を期待したいと考える。また、その後の改善効果についても数年度ごとに確認する。

2. 教員アンケートの結果から、多くの教員が研究重視の教育を期待していることが明らかになった。これについて、具体的な問題点と改善点を検討する。

回答：教員アンケートの結果からは、その理由等は明確ではないため、まずはその理由も含めてより詳細に調査を行う必要があると考える。したがって、QA 委員会にはこの際アンケートを依頼する。

3. 食肉検査を含む食肉衛生実習、豚や鶏の飼育管理に関する学外実習の実施が困難になっている現状について、改善策を検討する。

回答：コロナのみならず、家畜伝染病の発生拡大を理由に、と畜場や家畜・家禽の農場での実習受け入れが減少しており、学生の学習機会が消失しつつある。これを改善するため、都道府県（食肉衛生検査所、家畜保健衛生所、保健所、動物愛護センターなど）やNOSAI のインターンシップへの参加を促すよう、学生に働きかける。また、大学からも、関連するステークホルダーに協力を要請する。

以上